

箕輪町 農業委員会だより

箕輪町と上伊那農業高校 畜産班の絆 上伊那農業高校畜産班班長 3年 中村 陽水 (福与)

若者 NOW

私自身箕輪町に住み、母も上農高校の畜産班の卒業生です。畜産班では動物のこと、畜産物の活用のことなど楽しみながら勉強しています。今回は上農高校卒業後箕輪で活躍されている先輩たちの紹介と、畜産班の紹介をさせていただきます。白樺牧場（南小河内）に、2名の男子を就農させていただき、女子もアルバイトさせていただいています。また、荻原牧場（木下）から牛乳を分けていただき、モッツアレラチーズを作ります。今年入学した荻原大樹さんの息子さんがおいしい鹿肉ピザを作ってくれます。柴勇一郎さん（中曽根）に受精卵移植をしていただいて、上農高校で飼育している黒毛和牛の血統を高めようとしています。現役の高校生は、有害獣として捕獲された鹿を使って、親愛なる鹿という意味を英語表記した「でいあ

でいあ」という製品名の鹿肉製品を製造販売してきました。「もみじ湖夢まつり」にも参加させていただいて販売しました。コロナ禍で、イベントもめっきり減った昨年3月から、およそ1年かけて校舎の一部を生徒が改修し、このたび「食肉処理業」と「食肉販売業」の営業許可を取得できました（信毎5月21日付朝刊一面に掲載）。これで有害獣として捕獲された鹿の解体、精肉、加工、販売すべての工程が校内で実施できるようになりました。これはおそらく全国の高校では初の取り組みだと思います。今年度は「でいあでいあ」と新商品「もののけ」を活用して、ますます地域に根ざした活動を実施し、上伊那の豊かな自然を全国にPRしたいと考えております。これからも畜産班の応援をよろしくをお願いします。



白樺牧場で働く卒業生



モッツアレラチーズ



受精卵移植授業



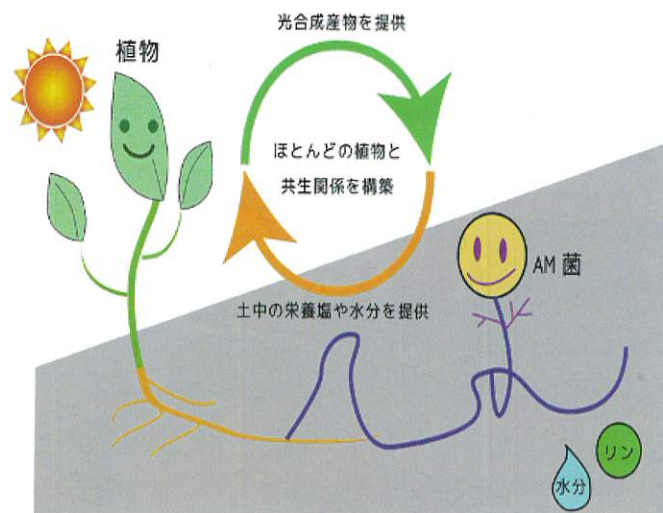
畜産班もみじ湖夢まつり参加



目から うろこ編 その五

「植物の根に共生する菌類の不思議」

唐澤 金実さん（沢）



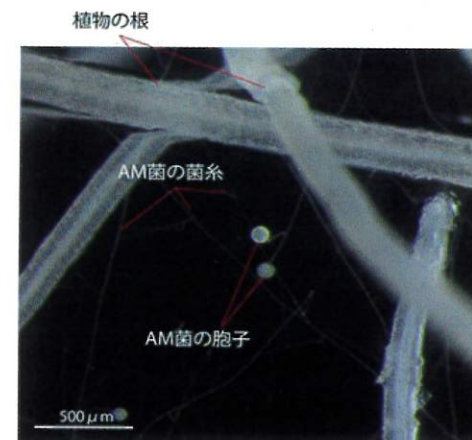
植物が育つ上で大事な要素と言えば、まず光（日射）・水・CO₂（炭酸ガス）です。これで植物は光合成をして炭水化物（糖）を作り生きていく上でのエネルギー源としています。

植物がその体を作る要素として、N（窒素）はタンパク質に、K（カリウム）は水を吸い上げるための浸透圧調整に、P（リン酸）は花や花芽に欠かせないアミノ酸や酵素を作るための必須要素になります。その他、根の促進にCa（石灰・カルシウム）、葉緑素の元となるMg（苦土・マグネシウム）、アミノ酸やビタミン類、各種ホルモンの合成に必要なS（硫黄）などと少量の微量元素（鉄・マンガン・亜鉛など）が作物が育つ上で必要な成分と言われています。

ところが近頃の研究で、すべての植物は光合成で作った炭水化物で根から放出し、それらをエサに共生菌を根の周りに呼び寄せ、時には自分の根の細胞間隙に侵入させて、炭水化物を与える代わりに菌糸が作ったアミノ酸やビタミン、時には害虫の忌避物質までも作ってもらい吸収していることがわかってきたと言います。これらの研究も近代の放射性同位元素測定や電子顕微鏡の発達によることが大きいと言えます。

代表的な菌根菌にアーバスキュラー菌根菌と言われるものがあります。アブラナ科の植物はほとんど共生菌を知らないでいるらしいのですが、隣に生えるハコベには多くの共生菌がいてそれらの中にアブラナ科の植物の根に共生する種類があります。

成澤才彦先生の著書の中に「共生菌が多い草のある畑では、害虫が少なく土壌病害もほとんど発生しない。また共生菌を温存して作った野菜の味は化学肥料で作った野菜に比べアミノ酸を多く含みコクのある野菜ができる」とあり、土壌中に共生菌を多くするコツは炭水化物を多く含む枯葉やカヤ、ススキ、緑肥のライムギなどをすき込むことだそうです。



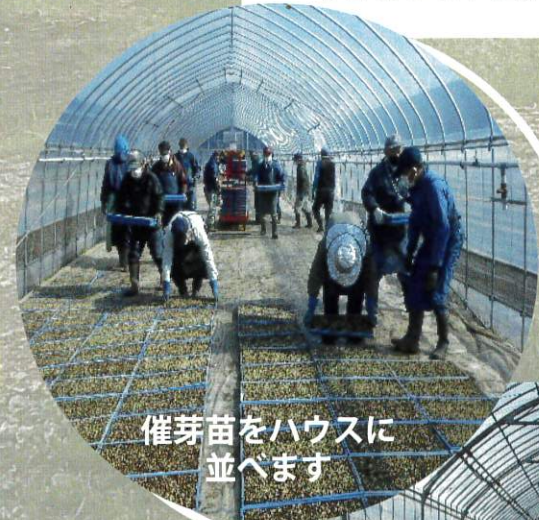
営農組合活動紹介編

みのわ営農 水稻育苗班の仕事

毎年訪れて来る田植えの季節が過ぎ去り、この農業委員会だよりが届く頃には田んぼでは青々とした稲が風に揺れていることでしょう。その稲がモミから田んぼに植えられるまでを追って見ます。

JA上伊那の水稻育苗施設で総数98000枚を育苗しました。その内箕輪町内からの注文は18000枚余り、芽出しをした催芽苗の育苗箱を4月14日から5月1日にかけてハウスに並べる作業が行われました。取材を行った5月13日から苗の配布を開始しました。朝早くから軽トラの長い列が見られ、組合員が手際よく荷台に積み込み、作業に汗を流していました。

「今年は天候もよく良い苗になった」と征矢和夫理事長と大槻長作業班長は口を揃えて笑顔で応えてくれました。秋にはきっとおいしい上伊那産米が収穫できることでしょう。



催芽苗をハウスに
並べます



積み込み作業



征矢理事長



約1ヵ月かけ
本葉3枚の稚苗を
育成します



軽トラへの積み込み



大槻作業班長

お見事・・・あっぱれ！！ 令和3年度感謝状贈呈者、農業功労者、農業名人認定者

感謝状贈呈者

柴 恒年さん
(八乙女)

柴 恒年さん（八乙女）：長きに渡り町農業委員会活動に協力し、その間会長を務め、農地の集約化や遊休農地の解消に尽力をされました。

農業功労者

代田三男さん
(木下原)

代田三男さん（木下原）は町内外の耕作のいない農地を一手引き受け稲作中心に55haの農地を耕作しており、耕作放棄地の解消に積極的に取り組み、農地の集約化を目指し貢献しています。

農業名人認定者

唐澤成好さん
(大出)

唐澤成好さん（大出）：野菜作りのプロフェッショナルで、自慢のスイートコーンは「町ふるさと納税」の返礼品に選ばれるほどの自信作。持続可能な農業経営を実現しています。



柴 恒年さん (八乙女) 代田三男さん (木下原) 唐澤成好さん (大出)

箕輪町農業委員会の各地区担当委員（任期：2024年3月まで）

唐澤 金実	沢上北部1組 79-5668	唐澤 俊秀	中原2組 79-5783	藤森 英雄	木下南城 79-4596	井口 雅文	福与卯の木 79-3801
大槻 憲治	沢15組 79-6116	春日 初(会長代理)	松島西小路 79-4370	小松 孝寿	木下南原 79-5219	金澤 博(農地部長)	長岡大門 79-5428
藤田 久一	大出4組 79-5525	唐澤 健二	松島春日町 79-6467	櫻井 克成	木下一の宮2 70-8536	上田 千志	南小河内 北部 79-5711
関 幹子(農政部長)	八乙女1組 79-3894	小野健一朗	松島南町3 79-0530	赤沼 好秋	富田2組 79-5861	鈴木 健二(会長)	北小河内 中村 70-6212
小林 正俊	下古田1組 79-3312	倉田 孝子	木下上一東 79-5172	唐澤 由寛	中曽根1組 79-5010		
唐澤 稔	上古田3組 79-4027	原 美鈴	木下南部 79-3138	藤澤 昭二	三日町上棚 79-4959		

JA上伊那北部営農センター
農事組合法人みのわ営農 → 79-0636

地区営農組合(5地区)：連絡先は上記の農業委員会の各地区担当委員におたずねください
北部(沢/大出/八乙女/下古田)、中部(上古田/中原/松島)、南部(木下/富田/中曽根)、箕輪(三日町/福与)、東箕輪(長岡/南・北小河内)

箕輪町農業委員会だより 第11号 発行2022年7月1日
農業委員会事務局(役場みどりの戦略課内) 0265-79-3170

編集後記：箕輪町で新規就農を希望する20~40代の若手農業者は果樹栽培が多いが、野菜作りを希望する若者もいる。野菜の中では産地化されていることもありアスパラを作る農家が多く大変助かる。20年前より消費税は10%、最低賃金は231円、肥料代は平均360%も値上がりしているのに野菜の値段は20年前より下落している。これでは農家の貧困は進み、ましてや家族を増やすことすらできない。(金実)